

言の字

学校のテストで思うような点数が取れなくなり、自信を失いかけていた中学3年の女子生徒。

使っていたテキストは、カラーのイラストや図表をふんだんに取り入れたものだった▼助言を受け、教材を白黒の問題集に変えたら、あれよあれよという間に点数は高いレベルに戻った(鈴木正樹著『十人十色の子どもたち』大隅書店)▼耳で聞いて理解するのは苦手でも、目で見て覚えるのは得意な人もいれば、その逆の人もいる。カラフルな教材を好む子もいれば、かえって勉強しづらくなる子も。

説明の仕方や内容が「分かりやすい」かどうかには、「相手にとって」という前提が付く▼御書に登場する仏教説話に「舍利弗の過ち」がある。鍛冶屋に肉体の不浄を観じる修行を教え、洗濯を仕事とする者に呼吸を整える修行を教えてしまった。結果、2人は何も得るところがなく、不信を起こしてしまう。仏がそれぞれに逆の修行を教えること、2人はすぐさま悟りを得ることができた(御書438頁、趣意)

▼人材育成に「共通のシナリオ」はない。この人を人材に育ててみせる「と決意した人が、一人の幸福を祈り、関わっていくなかで書き上げていくものだ。相手を思う一念が知恵を生む。誠意をもって、友の成長に力を尽くす励ましの人でありたい。(糺)